

金峯山寺

金峯山寺は、修験道という宗教の開祖である、役行者（634–701）によって創建されたとされています。修験道は日本古来の自然崇拜に、仏教や道教などが習合した修行をともなう山岳信仰の一形態で、金峯山寺はその根本道場（最も重要な修行の場）です。現在も、金峯山寺には、山上が岳までの厳しい修行へ向かう伝統的な衣装の行者たちが参拝します。

蔵王堂は、金峯山寺の本堂で、国宝です。蔵王堂は奈良の東大寺大仏殿に次いで日本で二番目に古くて大きい木造建築物で、三体の鮮やかな青色の蔵王権現などが安置しています。蔵王権現は、この山で役行者の前に姿を現した仏の権現です。重要文化財である蔵王権現像は、普段は参拝できませんが、時々一般公開されます。

金峯山寺は、2004年にユネスコの世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産です。